

略的に行ってきた海外プロモーションなどにより、温泉やテーマパークなどを中心に訪れる外国人観光客のさらなる増加を期待しているところだ。

平成30年度上期外国人宿泊者延数(上位3カ国)

台湾	67,709人
韓国	63,686人
中国	33,936人

一方、人口減少や高齢化が進展し、経済規模の縮小が見込まれる本市において、将来にわたって活力と賑わいあふれる市内産業を創造していくためには、地域資源など、強みを生かした外貨の獲得が重要であり、本市を訪れる年間約4百万人もの観光客、特に、外国人観光客がもたらす消費などの経済効果を農業や漁業、飲食サービス業、小売業など、市内のさまざまな産業に循環・波及させることが肝要です。



J R 登別駅



▲旧正月の時期に合わせて、J R 登別駅を利用する観光客の荷物の運搬を補助する『ポーターサービス』

近年、J R 登別駅を利用する外国人観光客が大きく増加しており、大きなバツグを持った観光客が階段の昇降に大変苦慮している状況にあります。J R 登別駅は、まちの印象を大きく左右する観光の玄関口であることから、駅構内へエレベーターを設置するなど、観光客をはじめ、障がいのある方や高齢の方も安心して登別観光を楽しんでいただけるよう、観光客などに優しい観光地づくりを推進する必要があります。先般、市に対し、駅構内の地質調査や現況測量、基本設計の結果をもとにした工事費の概算総額が、北海道旅客鉄道株式会社から示されたことから、今後、設置時期や市の負担額などについて協議を進めていきます。

J R 登別駅のエレベーターなどの設置や観光客の受入環境の整備などについては、大きな財政負担が見込まれることから、財源確保の可能性について、登別商工会議所や登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合、カルルス温泉旅館組合、市内商店会などの関係団体などと協議を進めていきます。

また、多くの観光客が利用するJ R 登別駅前広場については、歩行者や自転車、自家用車、バス、タクシーなどが輻輳するなどの交通安全上の課題があることから、複数の交通手段の出入りや乗り換え、乗り継ぎ機能の充実をはじめ、観光客が本市での観光や胆振地区の観光に期待感

をもつていただけるよう、観光地の玄関口としてふさわしい魅力あふれる駅前広場とするため、地域の方の意見をいただきながら、関係機関との協議を進めるとともに、平成31年度中の都市計画変更に向けて事務を進め、早期の完成を目指していきます。

登別観光の玄関口

J R 登別駅周辺の商店街などの活性化については、引き続き、空き店舗活用に対する支援や事業所を開設する際の補助上限額の引き上げなどにより、起業や事業所の誘致に取り組んでいきます。

また、観光インフォメーション機能や物販機能、観光客と地域住民がふれあえる空間など、登別観光の玄関口にふさわ

しい観光拠点施設の整備に向けて、地域の方や関係機関などと施設のあり方や活用方法について、しっかりと協議を進めていきます。さらに、登別地区において、自主的な市民活動が引き続き展開できるよう、婦人センターをはじめとした周辺公共施設のあり方について検討していきます。



▲空き店舗活用事業補助金を活用し、飲食店や簡易宿泊施設などが開業しているJ R 登別駅前の商店街